

## 議 事 録

会 議 名	平成25年度第2回寒川町総合計画審議会	
開催日時	平成26年1月21日(火) 15:00~17:30	
開催場所	寒川町民センター3階 講義室	
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	(委 員) 飯田 誠(会長)、早乙女昭(会長職務代理者)、柳下雅子、山田政博、 藤沢喜代治、脇 文亮、佐藤 清、相原雄幸、熊澤 茂、 島村 繁、平本正子、鈴木重徳、鈴木 茂  (欠席者) 鈴木宏文、志村知昭、成重恒夫	
	(事務局) 企画政策課企画行革担当 石井宏明(部長)、深澤文武(課長)、高橋陽一(企画行革担当主査)、 吉田史(企画行革担当主査)、吉田慎也(企画行革担当主任主事)、 三澤忠広(企画行革担当主任主事)、遠藤孝(企画行革担当主任主事)	
	※傍聴者 2名	
議 題	(1) 平成24年度事業の実施結果と今後の展開について (2) 寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画における財政計画について	
決定事項	○議事-(1)平成24年度事業の実施結果と今後の展開について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】 ○議事-(2)寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画における財政計画について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】	
公開又は 非公開の別	公開	〈非公開の場合その理由(一部公開の場合を含む)〉
	<b>1 開会</b>	
	<b>2 会長あいさつ</b>	

	<p>本日は、委員の皆様方につきまして、ご多忙中にもかかわらず、本審議会にご出席賜り、感謝申し上げます。</p> <p>本年度につきましては、今回が第2回目の総合計画審議会となりますが、前回は実施済み事業の実績やその後の方向性の審議時期をはじめ、本審議会の位置づけや財政計画等に対しまして様々なご意見をいただきました。</p> <p>本日は、そうしたご意見等を踏まえた上での開催となりますが、事務局からの説明の後、皆様からの積極的なご意見等をお伺いしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>
議 事	<p><b>3 議題</b></p> <p>(1)平成24年度事業の実施結果と今後の展開について</p> <p>会 長      では、議題(1)平成24年度事業の実施結果と今後の展開について、事務局から説明を求めます。</p> <p>《事務局から、(1)平成24年度事業の実施結果と今後の展開について、内容を説明。》</p> <p>会 長      平成24年度事業の実施結果と今後の展開について事務局より説明がありました。この件について、ご意見、ご質問等ありましたらどうぞ。</p> <p>鈴木(茂)委員      後期基本計画進行管理シートの4ページの施策1から4まで重要度が決められています。どのような基準で決められているのか。</p> <p>高橋主査      先ほどのご説明の中で、施策のアンケート結果は現状の評価と今後の重要度に分けたと説明させていただきました。各結果についてはポイントに換算し直したと説明させていただきましたが、そのやり方は、現状の評価項目が十分・やや十分・やや不十分・不十分という項目が設定されており、十分は4点、やや十分は3点、やや不十分は2点、不十分は1点とポイントに換算し直します。今後の重要度につきましては、重要は4点から重要でないの1点までポイントに換算して計算しています。</p> <p>鈴木(茂)委員      そうしますと第1章第1節第1項にある道路網の整備は施策タイプⅣに判断される訳ですね。この評価を見ると力を入れる必要性が低い項目と書かれています。そういうことが第1章第1節第1項に記述されることはおかしいのではないかと思うんですが。普通は、一番大事なことが最初に来る訳ですよ。極めて重要度の低い項目を書くというのは論理的におかしいという気がするのですがいかがでしょうか。</p> <p>深澤課長      総合計画本編の41ページをご覧ください。アンケートの現状評価はやや十分という評価を受けているところなんです。ワークショップなど町民との対話の中では道路網の整備を要望する声が大きかったという状況がありました。アンケートについては全ての情報を共有しながら議論を尽くしたのではなく、個人の思った感覚的なもので回答をいただいていますので、総論としては十分であると判断しても、個別には要望がございまして。都計道など大きな幹線道路が出てくるなかで、その周辺的生活道路などについては依然として改善の声があります。アンケート結果としては、こういう結果であるものの、個別的に聞くとそういった要望が多いということでございます。</p> <p>鈴木(茂)委員      アンケートの仕方によっては結果が大幅に変わってしまうと思います。アンケートをどのようにするのか。例えば一番大事な施策が施策タイプⅣではⅣと、やらなくてもいいという仕事なんですよ。これは定例業務なので発表することもない仕事だと。町の行政の主役は施策タイプⅠとⅡをいかに厳しい財政状況の中で追求していくかということが仕事だと思うんですが。管理シートを見ると施策タイプⅢとⅣが結構書かれている。町が財政的に豊かでない中でどういう所を選択と集中をするのかということが管理シートからは読み取れない。業務をずらずら書いておいてⅢとⅣが多かったら何なのかという気持ちがないでもないのですがいかがですか。</p>

課長	<p>これだけ見てしまうとご指摘のとおりです。このやり方はポートフォリオ方式を使っているのですが、実際に絞ったターゲットではなく、議論を尽くした中で行われたものでもなく、アンケート用紙を送って皆さんの感覚的なものでお答えいただいているので、アンケートの仕方は工夫すべきと思っております。市場マーケットの取り方をどのようにすべきか私どもも勉強しなければいけないと思っております。第2次実施計画を作るのにあたっては少しずつ改善していきたいと思っております。エネルギー対策、自然環境、公共交通機関、社会保障制度には高得点が入っています。中には文化活動や道路網、公園など目標には達しないが満足しているという結果もありますので、その辺を織り交ぜて今後の方策として直近の情報を取りながら再度検討して行く必要があると思っております。</p>
会長	<p>アンケートを取って分析して効率的になっているのかという質問だろうと思えます。もう少し分かりやすく、何点とか人の数とかではなく、町全体として目標が鮮明に町民に分かるようなアンケートをする。こういう意見が多かったからこうしようという目標がないと、結果が施策タイプのⅢだとやらなくよいとなると総合計画審議会を何のために開催しているか分からなくなる。アンケートを取るならば分かりやすく効率的にやって欲しい。</p>
藤沢委員	<p>4ページの施策の方向とあります。一番下の幹線町道宮倉13号線の拡幅整備についてはどんな構想がありますか。</p>
深澤課長	<p>こちらの指標の目標値ですが、所管課が計画値を持って目標値を掲げているところですが、大変申し訳ございません。本日その資料を持ってきていないのですが、宮倉13号線については、今後歩道設置をしながら進めて行くことで決まっております。平成32年まで用地買収等を含めて記述をしているところです。私の記憶ですが平成27年くらいだったと思っております。それ以降の事業計画に出していたのかなど。確かな状況につきましては、またご報告はしなければならぬと思っております。事業一つ一つを32年までの状況を計画した事業計画書がございますので、その中から引いたということでございます。</p>
藤沢委員	<p>通常ならそういうお答えで結構ですが、最近、特に新幹線新駅まちづくり、町の方では27年にリニア中央が営業を開始する。それに併せて倉見新駅を開業すると言いながら、宮倉13号線はこのままでいいのかということ。倉見新駅を27年に営業を開始すると地元との申し合わせの中では、平成25年の4月1日から新駅の用地買収に入ると、5年6年かかると、あるいは7年かかっても、25年4月に買収を始めて、買収が終わろうと終わるまいと新駅は5年後には建築に着手する。それが6年かかったとしても、26年に駅を作らないといけない。そして周辺の道路網のアクセスを整備しなければならない。地元が心配しているのは新幹線のトンネルですよね。倉見の新町の信号機がありますね、その50m位の北の13号をあのままでとても新駅の開業には間に合わないだろうと。それでいながら、27年に新駅の開業といっているのは、町は何をやっているのだろうと。この席で説明をしていただきたいと思っておりました。</p>
深澤課長	<p>計画値としてはそういった計画で町の中でも動いてきたところでございます。遅れはご指摘のとおりです。JR東海の回答、新駅設置に向けた積極的な動きが出つつある中で、倉見のまちづくりの部分も含めて新駅の誘致と併せてやっていかなければならないと考えておりますが、JRからの回答をいただけない状況でございます。目標値としては当初計画どおり掲げさせていただいているところですが、様々な要因の中で今遅れを生じている状況でございます。目標を計画どおり進められるよう今後とも取り組んでまいりたいと考えておりますが、相手があることですので全体的に考えながら進めて行かなければならないと考えており、明確なお答えができず申し訳なく思いますが、現段階ではそのような考えでございます。</p>

会長	<p>町と倉見地域の話の中で契約みたいなものがある、JR東海がはっきりと返事をしない限りは前へ進めないということですのでね。JRにしてみると事業が始まってある程度見えてこなければ、そういう判断をしかねるといことだから、非常に問題なんですけども、担当として前向きな話をいただくならばそれなりの運動も展開しないといけないと思う。県ともタイアップしながら、できるだけ早くに情報収集したり、あるいは広域行政の中で寒川の位置づけを決めていくのかも大事なことだろうと思う。早めに計画をきちっとしないと総合計画の意義がなくなってしまう。</p>
早乙女委員	<p>最初の4ページのポイントに換算するという部分がよく分からない。先ほど十分・不十分に関するポイントがどういう形で最終的に現状の評価の数値になるのかがよく分からないですよね。それとページによって現状の評価も色々な数値があるわけですが、これは数値が大きい方が良いのですか。</p>
深澤課長	<p>こちらは順位として出しております。現状の評価は数が少ない方が重要度が高いということになります。現状評価が高いというのが1になります。数字が大きくなるほど現状評価が低く、重要度も低いかたちになります。</p>
早乙女委員	<p>この資料で行きますと、7ページを見てもらえますか。下水道とか河川の整備ということで、計画期間における目標指標とありますよね。都市計画課の河川の整備率が書いてあるわけですが、現状値が62でね、平成24年度の実施の状況を見たら71.3だと。それが次の平成26年度の目標値が65としてありますよね。これは当初の計画の数値なのは分かるのですが、前回の総合計画審議会でも話に出ましたが、社会情勢の変化でやめましょうという事業があるわけですよね。取捨選択をして事業を新たに加えた、やめましたというのは別にまた聞きますけど、これは見直した結果今後こうしたいということが書いてある資料ですか。それともそうではないんですか。平成26年度の事業についてこれから、こういう場に諮って決めるというのであれば、もうすでに達成してある数値よりも目標値を低いまま置くというのは好ましい姿ですか。</p>
深澤課長	<p>ご指摘のとおり24年度に71.3で26年度末時点の目標値である65を大幅に上回っており、本来であればこのことを踏まえて26年度の目標値をさらに上げて置き換えて改正をしながらさらに高い目標に引き上げていくということになります。これは実施計画と連動している部分もございまして、実施計画3年間でこれだけ行うと決めたところとございまして、目標値としては、当初決めたままの内容でこういったかたちで数値を置いてございます。ただ来年度に第1次実施計画と併せて後期基本計画についても検証を行うわけですが、26年度の時には最終的には目標値が65のところ、さらに上に行ったという検証は行うということの中では数値は現段階では動かしておりません。ただ、65でいいのかというふうには思っておりませんので、こちらの河川整備については県の力を借りながら整備を進めておりますので、さらにこれについては上がるように県に要望しながら行きたいと思っておりますが、現段階ではこちらに掲げた目標値ということで記載をさせていただいております。</p>
早乙女委員	<p>それでいいんでしょうか。県と交渉するという話になったときに、寒川町は71.3までできていないかと。目標は65だったのだから、当分いいではないかとならないですか。重要度が施策タイプⅡですよね。しっかりと力を入れてやるべきものだから、見直しをしてPDCAを回しましょうというのであれば、現状よりも高い数値を普通は設定するのではないのですか。80と71.3の中間を狙うとか、あるいはもっと上げたっていいんですよ。目標値をクリアしたんだから次は26年度で80まで上げるんだという目標設定をしたっていいんだと思うんです。なぜこの古いままの数値を残すのかが分からないです。</p>

深澤課長	<p>ご指摘のとおりより高い目標を置くべきだと思います。他の計画でも掲げた目標をその計画期間内にはそこに置き、次期の見直しの時に見直していくという手法を取っているものがほとんどでございますけれども、総合計画につきましては、27年度が実施計画の改訂で来年度にはその作業に着手しなければならない状況でございます。後期基本計画に掲げている目標値についても現状値を踏まえながらその先、さらにその上を目指していく見直しをかけていく必要性もあると思っております。そういった中で対応していきたいと思っております。現在この計画を作ったときに内部の検討組織や総計審の皆様にご覧いただきながら定めておりますので、来年度が最終年度という中では現段階では大変申し訳ございませんがご覧のようにさせていただきますが、今後見直しの中で確認していきたいと思っております。</p>
早乙女委員	<p>この進行管理シートは目標値を設定するものではなくて、最初にやったものがどうできたかを言っている資料だということですね。次に資料1についてです。例えば企業では年度ごとに予算を組んで、年度内に中間で見直しして、次年度例えば24年度の結果が出る前に25年度の予算立てをするわけですね。25年度末にそれが終わったかどうかをチェックして、PDCAを回して何が遅れているか、そこに力を注ぎこんで25年度にはここまで達成しようというかたちで回すわけですね。行政の動きを見たときにそうなっているようには説明を聞いて思えないですよ。町はそれが3年計画で行くんだということなんでしょうか。</p>
深澤課長	<p>基本計画レベルでの計画目標値とこちらを達成するための手段としての実施計画がございます。実施計画につきましては、毎年度評価がありますので、その評価を踏まえて翌年度の予算に反映していくようなかたちで取り組んでいきたいと思っております。実施計画と基本計画の目標値はニアイコールの部分もありますが、完全一致ということではありませんので、これを達成するための手段としてはどういうものかということについては毎年度見直しするつもりでございます。ただこちらについては3年間ということで設定は行っております。</p>
早乙女委員	<p>前回の総計審で議論になったのは、24年度にやるべき実施計画が無くなったりしたわけですね。24年度の予算の中で、それはおかしいから前もって総計審に諮って次年度はちゃんとやるのか、あるいは見直したのかを議論しましょうということだったですよ。</p>
深澤課長	<p>資料番号1の9ページをご覧いただきたいと思っております。2月の総合計画審議会をご覧いただきたいと思っております。施策評価結果を踏まえながら新年度予算を検討して行った内容について総合計画審議会の中で検討を加えます。翌年度の事業を事前に2月の段階で総合計画審議会に諮ります。また廃止についても同様に審議会に諮りまして翌年度にスタートする事業を事前に諮っていきたく思います。これまでは総合計画審議会は4月～5月くらいに新たな事業もしくは廃止した事業を総合計画審議会にご報告していたところなんですが、事業反映は総合計画審議会を越えていないというご指摘もございましたので、前回のご意見を踏まえましてスケジュールを変えさせていただいております。これは26年度のことになりますので、27年度の実施計画、26年度の当初にアンケートをしながら内部検討をして、どういう事業を行うのか検討して27年度からの事業については、このスケジュールで26年度中には全て総合計画審議会を経た中で全て決めていくというかたちで、変えさせていただいております。</p>
早乙女委員	<p>26年度はそうなっていますか。</p>

深澤課長	資料1の冒頭の中で新たな取り組みということで、色々な分野に渡って見直しをかけております。こういったものに対しまして、今現在予算編成の中で、どういった効果を狙っていくのか、効率的なのかどうかを審議していますので現段階で新たな事業、本日はこの事業が新規、廃止しますというかたちではお見せできない状況です。こちらにつきましては、アンケート結果と併せて皆様にお示しして討論いただいてそれにもとづいて反映していくところでございますが、今回は大変申し訳ございません。こちらについては、現段階では27年度に向けた来年度当初からの動きでありますので、今回については対応できないところでございます。
早乙女委員	26年度は何をやるんですか。それを総計審に諮って26年度の予算の実行に移るのではないのですか。
深澤課長	それでは、今現在予算査定の中で新たな事業を揉んでいる状況でございますので、本日はお示しできませんが、今後実際の事業を立てた段階で総合計画審議会の皆様にまたご相談をさせていただきたいと。今年度中にもう一度開催させていただいてその中でご審議いただいて、予算に取り込むかたちで行きたいと考えております。
早乙女委員	そうすると、議会に3月に諮られるわけですね。その前の段階で、総計審に諮られるということによろしいですか。2月にもう一度あるということですね。どういうものを見直しして、こういうものを新たに加えましたという話が、元々の実施計画との違いも含めて整理されたかたちで出てくるということによろしいですか。
深澤課長	そのとおりでございます。
早乙女委員	その中には、目標値は新たな目標値として記載されたかたちで計画書はあがるということによろしいでしょうか。
深澤課長	第1次実施計画に追加で載りますので、その様式と同様なかたちで提出させていただきます。新規についてはそういったかたちでやらせていただきます。
早乙女委員	今回利子補給が25年度なくなりましたよね。新たな仕組みを検討しますと予算編成方針の抜粋の中でも記載されていますね。そういう検討の結果もあがってくるのですか。
深澤課長	今予算編成の中で議論しているところでございますが、現段階でも就労対策についても議論して新たなものを練り上げている状況でございますので、今後それが出せていけるというふうには思っております。
早乙女委員	予算の別の項目として入ってくるということによろしいですか。
深澤課長	はい。
会長	他にご意見ございますか。
島村委員	進行管理シートの48ページに商業の振興の部分が書いてあり、数字の確認で教えていただきたいのですが、上から3つ目のマスで計画期間における目標指数という、小売業の年間商品販売額、単位は億で、平成19年が297億、平成24年が219億、目標値が297億と書いてあって、この数字というのは、どのような計算ではじかれるのでしょうか。

吉田主任 主事	<p>小売業の年間商品販売額についてでございますが、目標値の前段で基準となる年を19年度に設定いたしました。こちらは商業統計調査の項目を試算値として入れさせていただいております。平成24年の実績値の考え方なんですけれども、商業統計調査から平成24年度に経済センサスの活動調査に移行されて、産業分類の小売業の分類が飲食業と宿泊業が別に取り扱われることになりました。小売業の年間商品販売額という同じ項目でとらえますと、飲食業と宿泊業が含まれない数字です。こちらの分類が変わったことに伴いまして、数字上では大きな数字が減額になっている見え方をしていきます。これ以外にも調査手法が変わったことに伴って数字の動きがあるようなので、こちらは仮置きとさせていただいて、厳密な評価としてはしにくいと分析しております。今後指標の見直しの中で、19年以降の推計として評価できるようなかたちで、分類しながら実績も測定していきたいと考えております。現時点では評価区分Fとして評価できないとしております。また、宿泊業と飲食業の統計値も現時点ではまだ公表されていないので、足したかたちで比較することができないという現状を踏まえますと、現時点では評価できないので後ほど皆様にご審議する際には評価として正しいやり方を添付したうえでお示ししたいと考えてございますので、ご理解いただければと思います。</p>
島村委員	<p>同じマスで、寒川らしさを感じる特産品数で平成22年で24となっております。目標値として25となっているんですけれども、イースマークの認定で特産品と推奨品がありまして、認定委員会が平成23年からスタートしたんですけれど、現時点では特産品と推奨品を合わせて商工会で揃えている数字は32品目あるんです。この数字というのは、現状と違うのではないのかなと、あるいはどういう計算の仕方をするのかなと。認定委員会ができてイースマークを付けて町のおすすめの商品として、町と一緒に対外的に色々な演出をしていこうということで今年はかなり力を入れて行きたいと思っているんですけれども、目標値も低いし、商業振興の数字やデータが力が入ってないと、分かってないという気がするんです。優先順位からするとページ数が末席の方ですから、2020プランの中ではあまり力が入っていない。産業振興課とコミュニケーションを取りながら今前へ進めていますので、このデータを出された所と産業振興課がちゃんとコミュニケーションを取れているのかどうか。これは公に出すデータだと思いますので、関係している人は必ず自分の関係しているところを見ますからね。ずいぶん危うい、本当に調べているのかなという気がしたのでぜひよろしく願います。</p>
深澤課長	<p>記憶の話で申し訳ございませんが、特産数ということで特産品だけのカウントだったと思われま。ただ、今言われたとおり町として推奨品も合わせて町のイメージアップのために指定しておりますので、この辺についても推奨品も合わせて表示するのが本来であると思っておりますので、次期の見直しの中では産業振興課と町が積極的にPRできるような数字に置き換えて対応してまいりたいと思っております。また、5章で一番後ろだから力を抜いているということではなく、町長からも積極的に進めるということですので、総合計画を利用して積極的にPRができるような数字に置き換えていくというふうに思っております。</p>
会長	<p>他にご意見ございますか。</p>
柳下委員	<p>総合計画を進行するにあたって、実効性ある計画ということが一番の計画の目標だと思いますが、24年度の結果を見て町はどれだけの実効性があると考えますか。進行管理表だけ見て実効性がどこまであったかが分からない。まずこの結果を見てどのような判断をなさったのか伺いたします。</p>
高橋主査	<p>進行管理シートの評価区分の見方の効果指標、実際にどれだけ効果が上がったのかということで、評価区分のAとBが指標の80%以上を達成しているという区分になりますけれども、AとBで約76%という現状でございます。</p>
柳下委員	<p>それに対して町の評価はどうなのか。それは結果であって、それに対して町の政策担当課としてはそれでよかったのかどうか。</p>

深澤課長	<p>実施計画としてAとBを合わせて76%というお話をさせていただきました。一つの手段としては、概ねインプットに対するアウトプットが図られたということで、実際に効果としては、施策の部分にどれだけ達成されているのかということが本来のあるべき姿というふうに思っておりますので、第1次実施計画が終わる26年度を目標値として掲げておりますので、どの程度実現されたのかをこの3年間、26年度末の状況を見て判断をしてまいりたいと思っております。単年度の中で約4分の3程度は達成できた中では、ある程度の達成度はあると評価をしております。</p>
柳下委員	<p>これは事務事業評価なんですよ。施策の部分は実施計画と連動させてこの施策を達成させるためにアウトプットと言いましたけど、本来はアウトカムなんですよ。そのアウトカムから判断してこの事業でいいのかどうか。その判断ができる訳ですよ。その視点をここに持って来るべきです。反省点で浮かび上がった問題点の②に「施策の実現に貢献しているかどうかチェックする考え方を取ってはいるものの」と書いてありますが、取っている確率は70%台なんですよ。26年度末をもってというのではなく、この3年に区切ったのは、26年度にはこの2年間の実績を持って27年度からの事業実施しなければこの施策の実現には至らないということですね。その24年と25年のこの事業の在り方、施策実現に向けてのアウトカムからの判断を26年度にしなければ、この第1次の実施計画、基本計画の目標には至らないと思うのですが、それは26年度には必ずやり遂げると言うことなのでしょうか。</p>
深澤課長	<p>インプット、アウトプットの話をしていただきましたが、まず一番重要なのがそれに基づいてはじき出されるアウトカム、成果の部分でございます。その成果の部分としてそれをどうとらえるかということなんですが、事業を手段として考えてございますので、後期基本計画の指標がどうであったのかをとらえる必要があります。ただ、本編に記載しているとおり、年度ごとの目標値が基本計画にはございません。年度ごとの目標としては、あくまで実施計画単位でのものを記載していますので、本来であれば後期基本計画の中に年度ごとの成果指標、アウトカムとしてそこに載せる必要性もあったかと今は反省点としてとらえるべきものだと思っております。こちらにつきましても、今後見直す中でどういうふうな評価の在り方がいいのか、また皆様のご意見を聞きながら改善に努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
柳下委員	<p>その場合にどういう評価をするのかは、行政の仕事の在り方じゃなくて住民視点なんですよ。住民にとって、先ほど住民ニーズと言いましたけど、反映されたのがどこかに書いてありましたけど20%ですよ。これは今まで皆さんが求めていたニーズの把握とか新たなニーズに対応するとかという言葉だけであって実態は20%なんですよ。つまり評価するのは住民なんですよ。それで緑の基本計画をここでは新たにやるって仰いましたけれども、環境基本計画を見れば10年前からもっと緑が欲しいという住民の声が10年間変わらないということです。道路整備もずっと「すみよいまちづくりアンケート」の第1位な訳ですよ。そうした住民の評価、住民の目をもって私は評価すべきだと思うのです。あらかじめそこに視点において事業を見直すべきではないかと。ただいつも言葉だけで前例踏襲主義とか言っているけど、この財源をもってどれだけの効果をあげるかは、やはりこれだけの事業が施策を実現するに足るだけのものなのかどうか。これを一枚一枚見たらば、評価はばらばらだし、この目標に合っている指標なのかどうかも全部ばらばらですよ。私は絶対これは効果的な事業ではないと思ひます。その判断をやるのが企画部門なんですよ。</p>



柳下委員	<p>個々から出てきたものを載せて、これだけの労力をもって、これだけのページをもって私たちにこれを読ませると、見てもらおうと、それだけ価値のあるものなんですかって言うことを私はこれを見て思いました。それはなぜか。アウトカムがない。この施策を実現するための事業を各課が上げてきたのか。どれだけの効果を上げたのか。その財源の中で。選択と集中というのであれば、施策の選択と集中を考えていただきたい。総花的ではないといっても実施計画は総花的になるんですよ。でも今一番大事なのは施策じゃないですか。それこそ住民ニーズを置き去りにしてただ書いてあるからやりますということではなくて、それこそ財源不足や扶助費の高騰、人口構成の変化に対応できる総合計画の在り方を根本から変えるべきだと思うのですがご意見いかがでしょうか。</p>
深澤課長	<p>行政として計画を組んだということの中で、この範囲の中でずっと続けていくということを考えているというものではありません。町長の指示でも、例えばこちらに書いたとしても状況によっては適宜見直さなければならぬという指摘も受けていますので、状況に合わせて見直していくべきだということで、ここに掲げている指標についても、全て事業を表しているものとは思ってございません。こういった部分については弱い部分という中で、企画を中心に今後、来年度は次の事業を決めるにあたっては、何を求めていくのかをヒアリングをしながら根本的に見直していきたいと思っております。そこについても先進的な団体のものを見ながらどこまでできるか悩んでいるところでございますけれども、住民の声が反映できるようなかたちで適宜見直していきたいと考えております。</p>
柳下委員	<p>求めていくかじゃなくて、町民が求めているものにどういう手法を取ればそれが効果として生まれるのかという視点を持って事業の査定にあたっていただきたいと思っております。なんでこの事業を持ってきたか。この事業をやるとどんな効果があるか。それがこの財源で十分なのかと。そこがアウトカムの考え方です。町長がおっしゃっているのは一番大事な住民主体のまちづくり、協働のまちづくりですよ。そうしたら事業も協働の視点で事業をやる、そうした事業を各課に持ってこいと。地方分権とここにありますが、書いてあるのはそういうことですよ。そうしたら現場にいる住民じゃないですか。住民参画じゃないですか。この予算と事業にその住民視点を、参画をどれだけいれるか。それは協働の事業ですよ。あるんですか。</p>
深澤課長	<p>今現在も右肩上がりの時代は終わりました、少子高齢化に伴って縮小する社会になってきております。人口についても今後は急激に減少する中で、限られた資源を有効に活用するにあたっては、行政単体で地方自治を担っていくのは困難な時代である中では、町民の皆様と一緒にまちづくりをしていく必要性が高まっています。皆様の協力なしでは、協働でやらない限りは地方自治体は立ち行かないかなというふうには思っております。それに向けてどういうふうなかたちで皆様の参画が得られるのか、皆様と話し合いながらということになるかと思いますが、私どもも管理職の目標などを設定しながら皆様と検討して行きたいと考えておりますので、ご指摘の部分については、重要なご意見として上にもお伝えしていきたいと思っております。</p>
柳下委員	<p>ぜひとも手遅れかもしれませんが、まだまだ26年度の予算に間に合うと思います。協働の事業がどれだけ君たちのところでやるんだと、この施策を実現するために、それは是非とも入れなければ自治基本条例はただ言葉にすぎないですよ。本当に大事だと思っているのかと。住民自治をこの町は進めて行くのかと問われると思うので是非とも26年度の事業として各課が持ってきた事業に対しその視点があるかないか。この事業はアウトカムをそこに持っていくのか問うて下さい。財源の有効な活用だと思います。人的な資源の活用。住民自治に一步でも近づくこのまちづくりを進めるのが、この総合計画で今一番早急に対応すべきで、時代の変化に対応するというその言葉を表すものは何なのか。具体的にどのようなことをやれば町は協働のまちづくりに進むとお考えになっているのか最後にお伺いします。</p>

深澤課長	<p>具体的にとお話がありましたけれども、今この段階でこれをやれば住民協働、住民参画、協働のまちづくりが全てうまくいくという内容の案は持ち合わせておりません。この時代はどこ自治体も選択と集中、どこかを切らなければどこかを重点化できないという状況にあります。ただ予算を切ったということではなく、皆様と一緒に協働でできることは協働です。行政でしかできないことはそこにしっかりと投入していくというようなメリハリをつけていくことが必要だと思っていますので、それをやるためには地域を担う地域の皆様の人材を育成しながら行政も一緒になってまちづくりを進めていく必要がございますので、そういったことを念頭に予算組みについても取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>協働とは言うけれど、行政が主導で行かないと、個人がいくらやろうとしたってできないんですよ。将来に向かっての設計図を行政が書くべきなんです。議会もそれを承認して投資的效果を町民に、その年度ごとにこれだけ投資してこれだけの効果がありましたという報告を町民にする。それが協働で作ったものなんです。企画部門は将来像を寒川のあるべき姿を書いて、今年度はほんの少しかもしれないけど進んで、10年後にはこうなります、20年後にはこうなりますというような、きちっとしたものを調整しながら、広域行政の中で連携をとれるのは行政しかないんですよ。総合計画というのは総合的に将来計画をきちっと作っていないければ、いくら審議したって部分的なものでね、いくら論議したってどれだけ進んだか、それがいいか悪いかを論議するのは総合計画の中ではないんですよ。将来はどうなのか。将来に向かって計画を作っていくのがこの総合計画だと思う。</p>
熊澤委員	<p>国ではトンネルの落盤事故を受けて、全国的に点検して老朽化した道路・橋・下水の管理計画を作れと言っている。人口も減り財源もなくなり、維持管理の時代に入っている。その中でそれらを見落としていくと、プールだって壊れてお金がないからか放っばりっばなし、公民館も古くて危ないからと壊して壊しっばなし。維持管理の時代に入っている感じがするので、それらを見ながら総合計画も作っていかなければいけないのかな、その視点が欠けているのかなど。そういうものは突発的に起きるので予測がつかないかもしれないけれど、それらをきちっとしていかないと、あっちが壊れこっちが壊れそのまんまでは、寂しい感じがするので、見直しの時にトータルで入れていただけるとありがたいと思います。</p>
深澤課長	<p>国から公共施設の在り方や今後の維持管理について計画を立てなさいと発表されております。道路橋梁については、長寿命化の動きもございますので、そのような計画を組まないと今後補助金を受けられない状況もございますので、これまで公共施設は右肩上がりの時代は単一施設、一つの目的に一つの施設で進んできたところですが、全国的にこれからは施設については整理見直し統合しながら複合的要素を用いながら施設を運営していく方針が主流になってきている状況でございます。町についても同様に、来年度以降になろうと思いますが、20年度には基礎調査は終わっておりますので、その後どういうふうに施設の在り方を行っていくのかを、第2次実施計画に載せていかなければならないと思いますので、十分検討していきたいと思っております。</p>
会長	<p>他にご意見ございますか。</p>
<p>(2)寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画における財政計画について</p>	
会長	<p>続きまして、議題（2）寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画における財政計画について、事務局より説明願います。</p>
<p>《事務局から、寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画における財政計画について、内容を説明。》</p>	
会長	<p>議題2について事務局からの説明が終わりました。何か質問、ご意見がございましたらどうぞ。</p>

鈴木(茂)委員	非常に何と言うんですか、この図を見ると町債の発行は、30年度あるいは32年度を見ると、今より倍以上いく訳ですよ。その利息とかについては、これには書いていない。この先のことで我々はその負担利子とか償還、そういったものに重荷を背負わなくちゃいけないと。でも今ここにあるのは、ほとんど古いやり方で箱物の建設ばかりやっている訳です。そこにはもっと、今まちづくりに大変なことはソフト、ソフトというのは人間の気持の在り方、そういったものが一切触れられていない。ずうっと一番日本が一番良い頃の箱物の建設だけでほとんどお金が使われている。これで果たして適切なまちづくりが行われるかどうか。これが私の一番の疑問なんで、その辺は町としてどのように考えるかを教えていただきたい。
深澤課長	ご指摘のとおりこちらの財政計画の中では、今後大型の普通建設事業が目白押しであります。ほとんどがツインシティの事業計画。また、田端西地区のまちづくり計画。それと公共施設の特に小中学校の老朽化に伴う大規模改修。この三つぐらいかと思いますが、大きく関わっております。こういった中では、必要なものというのはいくらある程度は投資をしていかなければならない。今後まちづくりを進めるにあたっては、前段基本構想で平成32年まで設定しておりますので、こちらにつきましては、平成14年、一番最初今から十年以上前になりますけれども、基本構想につきましては、議会の中で議決を賜りながら、こういったまちづくりを進めていくということの中で設定をしておりますので、これに向けて進めていくためには、今後こういった形で普通建設事業が伸びていく状況でございます。ただこちらにつきましては、現在基本構想がこういったことで掲げられておりますけれども、その時点時点の状況によっては、見直し、ある程度その事業の推進の仕方、在り方。こういったものを鑑みながら、より効率的な進め方をしていく必要があるということで、予算規模としてはこういったものが掲げられておりますが、今後そういった見直しも必要なのかなと思っております。こちらにつきましては、また皆様と議論しながら在り方というのを検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。
柳下委員	引き続きなんですけど、その時その時と言いますけれども、総合計画であるならば、もう早い段階から人口減少と、それから財源の右肩上がりが見えない中で、この普通建設事業費がこれだけあって、それに対する債務が、これだけでも90億以上でしょう合計すれば。それで後年度のつけをね、町長は子どもたちの健やかな成長とおっしゃいますが、プロジェクトがまた変わってしまうのかと。そういった次世代のことを思えば、その時その時じゃなくて早めに手を打つべきだと思うのですが、いわゆる総合計画そのもの自体の私は財源、財政上から出たものに対する見直しというのが、あってしかるべきだと思いますが、そのお考えがとおりでしょうか。
深澤課長	そちらにつきましてはですね、先程来お話したとおり平成14年にスタートした時にですね、基本構想については、町の将来都市構造で議決を賜ってございますので、これに基づいて町としては着実に進めていきたいというふうに考えてございます。ただ、その事業の在り方、こういったものについては、今ご指摘のとおり、今後見込まれる扶助費等、そういったソフト的経費がかなり膨大に右肩上がりになってくる状況でございます。そういった中では、財政状況を鑑みて見直し等もですね、こういった事業の進め方をするのか、そこについては町民の皆様と一緒に考えていかなければならない。ここについては、先程来委員さんからもご指摘のあった協働のまちづくりを進めるためにも、そういった町民の意見を聞きながら進めていくことが重要であると思っております。ただ、現段階では32年までということの中では、そういった今、JRの中で動きを町としても県と歩調を合わせながら、また近隣の動向、協力体制、そういったものを踏まえながら現在の総合計画が成り立っておりますので、現段階ではこういった形で総合計画が作られておりますのでご理解いただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

柳下委員	理解をした上でのことなんです。つまりね、これ扶助費、当然高齢化率がどんどん上がる、今でも23%で毎年1%ずつ、もっとかもしれません、増えていく中で想定できる訳じゃないですか。そうすると政策の変更というものもあってしかるべきだと思うんですよ。それはやっぱり企画部門が先を見通しての財政力も見通しての、そういった社会の変動とか、言葉だけでじゃなくね、実際にその動きをするべきだと思うのですが、それについてはいかがなんでしょうか。
深澤課長	こちらの財政計画につきましては、そういった、先程も、他の事業も含めてでございますけれど、来年度第2次実施計画の策定に向けて全体的に見直していく必要があるというふうに思っておりますので、その際には財政計画を立てた時と状況がまた違ったりしておりますので、そういったものも整合性を合わせながら作っていかねばなりません。こういったものについては来年度、27年度スタートする財政計画をまた作っていきたいという中で、その部分についても併せて議論をしていきたいと考えてございますのでよろしくお願いします。
会長	他にございますか。非常に財政面は、消費税も10%になればどうするのかと、変動的な面もあろうかと思っておりますけれどもそういう面も含めてですね、ご意見として、計画的にやっていただきたいという意見だろうと思っております。その他にご意見がなければ、よろしいですか。議題2についてはこれで終決をいたします。
<b>(3)その他</b>	
会長	続きまして、議題3のその他でございますが、事務局より何かございますか。
深澤課長	先程ですね、私の方からもお話しさせていただきましたけれども、26年度に向けた新規事業、また廃止事業、統廃合を行った事業について、本審議会を本年度にもう一度開催ということでお話しをさせていただきました。こういった中では、また皆様にお示しした中でご意見を頂くために、改めて開催等につきまして、ご連絡させていただいた上で、今年度中、2月になろうかと思っておりますが、開催してまいりたいと思っておりますので、大変お忙しいなか申し訳ありませんが再度お集まりいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
会長	もう一度開催するという事務局からの報告です。その他委員の皆様から何かございますか。
鈴木(茂)委員	今回のお話を聞いてですね、会議のスピードは相当普通のレベルまでに追いついたということで、非常に前回意見を言って良かったと思っておりますし、あと、この色んな施策の重要度の付け方で、一般で言う世の中のマーケティング的な考えも採用していただいて、かなり考え方的には良くなっていると思っておりますので、これが考え方だけでなく、中身に反映していただければと思います。以上です。
会長	意見を具現化していただきたいということですので、よろしくお願いします。

藤沢委員	<p>ここでお尋ねして良いんだかどうか分かりませんが、先日配布いただいた、後期基本計画進行管理シートの4ページまでは丁寧にご説明があった。6ページから最後のページまでについては、次の場面でという意味で、じゃあこれをこのまま見過ごしちゃって良いかどうか。少なくとも私は、この中で私なりに、2点だけでは確認というかね、町はいつこういうふうになったのかと思うことがある訳ですよ。それは5ページと11ページですけど、どうなのでしょう。6ページは第1章第1節とあって、計画期間における目標指数、目標指標というのがありますね。都市計画課、JR相模線乗客数だとか、それからその下欄の施策の方向。これ、私は今日このままこれをね、質問もしないで帰ったとすると、前回は承してるんじゃないかというふうに思われるんじゃないかな。そこで伺いしてよろしければ、続けさせていただきます。施策の方向として、公共交通の充実促進、黒丸の二段目JR相模線については、利用者の増加が見込まれる中で当面は行き違い施設の整備や運転本数の増便等の要望活動を行っていく。こういうふうなことをこれからおやりになるんですか。やるという計画を立てられたんですね。</p>
深澤課長	<p>こちらのJRの当面の間の行き違い施設等の整備において、相模線については、すれ違いが出来ない駅、そういった駅だけではなく、島駅、両方が行き違い出来る駅、輸送力を上げるためには島駅をやはり多くしなければいけないということで、今、相模線の期成同盟会の中で、その島駅に対して4駅で設置していただきたいとJR東日本の方に要望活動を行っているところでございます。そういった中で、引き続き要望活動を行っていくところでございます。</p>
藤沢委員	<p>私がお尋ねしたいのは、大変相模線が要望されているけども需要に追いつかない。そこで平成19年の12月ですね。JR東日本は相模線複線化等期成同盟会へ対して島駅、今おっしゃられた島駅を19年度から着手しますと。それにはまず香川駅。その次に門沢橋。そして入谷。というような順序で、まず19年度から香川を島駅に21億で着手します。その後に変更があって、香川の次が厚木ですと。そして上溝ですという言葉があった。そしてしばらく動きがないと思っていたら、平成22年の7月の29日ですか。JR東日本は、複線化等期成同盟会へ島駅はNOですよと。ちゃんと方向を打ち出された訳ですね。島駅はNOですよと。それで信号機等の改善によって対応しますということになって、それもどうなったのか。それはさておいて、また今度元の島駅の運動を始められるということですか。</p>
深澤課長	<p>こちらにつきましては、信号機の改善などにつきましては、相模線の複線化等期成同盟会の中では、基本的には島駅、複線化に向けて、まずは島駅の要望をしているところでございます。JR東日本が入った組織については、相模線が走っている沿線市町で構成されます相模線在り方検討会、構成員は同じなんですけど、組織が違う中でですね、そういった島駅ではなく、JRの方からは島駅ではなく、信号機等の改良に伴って輸送力は増強される、というようなご提案もいただいております。そこについては、担当の中でどういう形がよろしいのかということでございますけれども、基本的には、相模線複線化等期成同盟会としては、継続して複線化に向けてまず第一歩ということで要望していくということでございます。</p>
藤沢委員	<p>そうすると、2頭立てで複線化と期成同盟会は島駅を望んでる。じゃあ在り方検討会はどうなのでしょう。同じ歩みじゃないんですか。今2頭立てで、期成同盟会は島駅を望んでいる。じゃあその時に、期成同盟会はJRとはどう話をされたのかなと。22年の7月、島駅はNOですよと言われた時に指をくわえて黙って引き下がったから、今度はそれが芽を吹き返そうということなのか。その時どういう対応をされたのか。その対応によって、今度動く時は違ってくるんじゃないですかね。</p>

深澤課長	<p>そこにつきましては、JRが我々行政と同じテーブルに着くには、複線化等期成同盟会の中では着けないというような申し出がございましたので、在り方検討会の中でテーブルに着いて、その辺をご提案いただいたということでございますが、そこについては、今後どういった形で進めていくのか、まず町として平成24年スタートした中で、基本的には現段階でも複線化に向けて努力していく、という表現で記述しておりますけれど、今後この辺については状況によって、担当がJRを含めながら検討して行くものであると考えてございます。</p>
会長	<p>ちょっとあつかましいようですけれども、この件について代表質問をいたしました。相模線の活性化についてね。そうしたら黒岩知事の方からは、利便性を向上するために各駅の市町村が色々な計画を作って、利便性の向上あるいは駅としての乗降客増強に力を入れて欲しいということと、その計画については各市町村で計画し、それについて県として、広域行政を担う県として、ある程度の支援はしましょうというような答弁をいただいたんですよ。だからそういうことの中で相模線を本当に具現化して、先程言われたようなどういう駅を造るのかということは市町村の計画だと。どこまでの負担を県がするかは未定なんですよ。予算の中にはまだ出てきておりませんが、去年の代表質問の中ではそういう答弁でしたので、何か参考になればというようなことで、報告だけさせていただきます。</p>
藤沢委員	<p>我々は3月議会もでございますから、その時にお答えが出るようにしていただければ良いとは思いますが、JR東日本の総会の中では、3.3キロの相模線の複線化なんて、毛頭計画にはありませんよと言われてる。あなた達はどことどういう交渉をされているのか。それは横浜支局の人は格好の良いことは言うかもしれないけれど、そして文書の中では見応えのあるような作文は作ってあるけど、これは私は、そんな程度の交渉ではとてもとても見込みはないと思う。やはり総会は総てを決する所ですよ。総会の中でそんな発言はやめろと言われる。それから11ページのツインシティに関する所です。そしてツインシティ倉見地区整備事業の推進というのが下から二番目ですけど、ここには24年度の効果指標はゼロと設定と書いてありますね。それで、その上の計画期間における目標指標というツインシティ倉見地区の整備進捗率、これ24年度はゼロが並んでいるのには違いないけれど、最後に5という数字が出ていますね。この5というのは何を指しているんですか。また、下から二番目の24年度の評価指標はゼロと設定のすぐ左評価区分はAとありますが、ゼロでもAという文字は何なんですか。その三つになります。</p>
深澤課長	<p>ご指摘のとおりですね、目標がゼロで実績がゼロだからAになるんですが、私どもとしても、大変申し訳ございません。決してこの表示が正しいとは思っておりません。本来であれば、Fなのかなとは思いますが、現段階では進捗率は、計画的には見込めないという中で、イコールであればAという表示がされてしまう仕組みになっていること自体が問題だと思います。実際には何も進んでいないという中では、単純にAではなくただの横棒なのかなと思うところがございます。ここについては表示を担当と少し見直して詰めていきたいと思っております。指標としては、22年度はゼロでございますが24年度というのは0.0005ということでございます。こちらの設定の仕方にもやや問題があるんですが、全体の総事業費的にはツインシティに係る、実際には、ツインシティが39年、2027年まで、実際には32年までが今の総合計画の期間でございますが、実際には39年まで、その内の平成32年まで担当が積算した総事業費、それに対する割合を目標値に掲げてございますので、平成24年度の事業費から算出した金額ということで、じゃあこれが実際にどんな意味があるのかと問われてしまうと、中々その決定事項、行為に対する目標指標でなかったということで、本来これが適切なのかということでございますが、そこについては中々この先が見えない状況でございます。そういった中で、設定としてはそういう風な設定をしてしまった結果からこういうような実際の数字が出てきているということでございます。</p>

藤沢委員	先程も申し上げましたけれども、町は、ということは町長は倉見の新駅は27年に営業開始だと。それを目標にしていますと強く言っていますよね。あなたが言われるのは、これは32年までなんだと。ということは27年というのは平成39年だけど、総合計画の期間は32年までだと。32年までを100と見るんですか。
深澤課長	実際には担当からすると、39年まで見込んでおります。その内の後期基本計画の計画期間である32年度までの事業費を100として見て算出しております。ですからその後期基本計画総事業費がこのツインシティに係る総事業費ということはないということで、担当からは概算額という形で2027年までの概算額はいただいておりますが、実際に取り入れているのは、32年までの金額しかこの中には入れていないという状況でございます。
藤沢委員	これはずいぶん難しいと思うんですよ。やはりまちづくりは、現在町長はまだ第一段階だと言っています。ということは39年で第四段階のラストということですよ。まちづくりはこれだけの長い期間でありながら、総合計画は32年までだということですよ。いつかはそれはすりあわせをしなければいけないと思うんですけど。このゼロが続いた最後の5というのが私にはどうしても分からない。なぜかという、24年の1月17日の晩に町長は担当の部長、課長十数人で来られて地元と話し合いをした。その時に、地元とは全く話が合わないで、それは途中で会議が終わらないで中断になっちゃってるんですよ。中断のまま現在まで一度も会議も持たれていない中で、例え0.0005なんておかしいと。マイナスがついたのなら私は黙って帰りますけど、マイナスもつかないで例え0.0005でもあったとしたら、何が何なんだろうと。それは宿題としてでも良いですから。会長そういうことでよろしいですか。
深澤課長	ご意見、ご指摘ということで持ち帰りまして、今後このことも含めて指標の在り方、事業の在り方等含めて議論させていただきたいということで持ち帰らせていただきます。
藤沢委員	ただ一言、地元を惑わせないで欲しい。町長にしても、あなた達にしても地元は17年間も苦しみ続けて、今もこんなでね、まだ第一段階ですよ、そして27年には営業開始しますよなんて、営業開始するんだったら25年の4月1日から新駅の用地買収に入らなきゃ出来ないはずなのに、依然として27年に開業しますよなんて、そういうことだとね全く地元はもう、駅はだからノーですよ。駅は嫌ですよ。それが先だっけの公聴会でもあり、それから県との話し合いでもあるということですから。見直しをお願いしたい。
会長	曖昧な答弁が多いので、その点をね、もう少し本当に確実性をきちっと得ながらですね、総合計画として報告をしたり、計画を立てたり、その前にやるべきことを確認して報告をしていただきたいなというふうに思います。その地域についてもですね、町長の立場としてもやっぱり地域に足を運んできちっとした意見交換をするなり。2月までにはその答弁は出てこないのだろうと思うし、このシートに書いてあるようなことにもならないと思う。
深澤課長	こちらの指標の表し方については、今後、第2次実施計画に合わせながら検討してまいりたい。2月の段階ではお示しできない状況です。
鈴木(重)委員	今年度もう一度開催される時に、26年度の総合計画に反映した予算がお示しされるわけですよ。その時に総合計画はこうなんだけど予算はこうで、財政計画があるのでこうなっていますということをポイント的に説明はされるんですか。

深澤課長	予算のフレームは見えておりますので、概要的なお話でございます。総合計画の事業とそれ以外の事業、管理経費的なものもありますので、今回については実施計画は総合計画の搭載事業部分だけでご報告しますので、ただフレーム的なお話はある程度はできると思います。
鈴木(重)委員	審議委員としての役割というか、総合計画は計画されていますから、それに対しては財政上の問題が一番影響があると思いますが、例えばこんなものを提案したいということが委員の立場として言えるんですかね。先ほど委員さんの方から、協働でということをおっしゃっているの。こんな提案をしたいんだけど、総合計画のフレームの中で、目標の中でこんなことをしたいと。今言っても来年度反映されるとは思ってませんが、そういう機会ってあるんですか。
深澤課長	総合計画審議会の役割としては、審議また建議をしていくということもありますので、ご提案いただきまして、それを町の中でも検討委員会を作りますので、そういった中で揉まさせていただいて改めてご報告するかたちになると思います。
会 長	他に意見等ございませんでしたら、以上をもちまして、本日の議題につきましては、全て終了いたしました。進行について事務局にお返しいたします。
<b>4 その他</b>	
	特になし。
<b>5 閉会</b>	
石井部長	どうも本日はお忙しいところ長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございます。本日いただいたご意見につきましては真摯に受け取らせていただき、今後につきまして反映していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。 本日はどうもありがとうございました。
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 資料番号1 後期基本計画における今後の施策等の展開について</li> <li>・ 資料番号2 第1回会議で出た「主な意見・要望等」とそれに対する町の対応(考え方)</li> <li>・ 事前配布資料 後期基本計画進行管理シート</li> </ul>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	飯田 誠 会長  (平成26年2月18日確定)